

CHICHIMEN

乳男 -チチメン-

青山アルト Alto ADYAMA PRESENTS

CHICHIMEN

DUO
[デュオ]





神崎伊織…
いおり



まさか

本当に悪魔
だったとは



俺は
こいつの…



それも

男の精を
捕食する
悪魔

あ

餌に
なっちまった

CHICHIMEN

π01



はっ
あ!

ああ!

う……るせえ! 誰が…ッ

ηッ
ηッ

ア

ほら

イク時は
可愛く
イクイクと
鳴いてみせろと
言ったらう

ぎゃ
う

にゃう

ひ!

ヒッ
ッ…!!

ああっ!

うめめっ!

はっ
っ



ぐっ…

屈辱だが

こいつの
言う通りかも
しれない

そもそも
こんなことに
なってしまった
原因は…

お前の大好きな
課長が見たら
なんて言うだろうな

クソッ

俺が
悪いんだ
……

あの日に
遡る







俺は
胸がものすごく
感じてしまうのだ



学生時代は下に
Tシャツ着てOK
だったんだけどな



この道場では
アンダーウェアは
着ないことに
なっている

初心者が
道着を掴みにくく
なってしまうからだ



しかも
本気の鍛錬
というよりは

仕事仲間との
コミュニケーションの
一貫の部活なのだから

互いに
そつと触れる
ことになる



憧れの人の
手が
俺の体に…



まずい

勃起
ち
まう…

もいっ..

俺は入社して
すぐの頃から
清水課長に
憧れていた

紳士的で

穏やかで…

分け隔てなく
誰にでも
優しくて

上品で…

もっと
課長に
触れられたい

……なるほどね
よくわかったよ

きりやう…



……フフ
見つけた

さっき
胸擦れた
からか

あ……

俺はいつからか
感じすぎて……から
変なモンまで
垂れ流すように
なっちゃった

調べたら
病気でも
なんでもなくて

ごくごく稀に
男でも
感度によって
こうなっちゃう
らしいが……

ゴ……

男同士ってだけでも

絶対無理なのに

こんな
恥ずかしい
体じゃ

ムッ...

ムッ...

課長と
どうこうなる
なんて絶対
ありえないな

柎！

どうか
したのか？

気分が
すぐれない
ようだが

神崎…

いや
大丈夫だ

そもそも
俺は

課長への恋心を
誰にも打ち明ける
気なんてなかった

女性に告白された
ことは何度も
あったけれど

興味が持てず
誰とも
付き合わなかったし

ここまで
好きになったのも
課長だけだ

だが

だから
きつとこの先も
ずっと一人で
過ごすのだ

幸せな恋愛も
セックスも
経験しない
だろう俺が

自分の中で
そっと
甘い秘密に
浸るくらい…

柊も当然
行くよなア?

カミサマは
許してくれる
だろうと
思っていたんだ

大丈夫なら
よかった

このあと
課長と皆で
飲みに行くんだ

悪魔はそれを赦さなかつた

それは
飲み会の最中

ほら

もっと
飲めよ
柊

ガシ

神崎

体が大丈夫なら
飲めるだろ？

ああ
飲んでるよ！

こいつも優秀で
人望が厚いのは
課長と一緒に
だけど

何かが根本的に
違うというか…
苦手なんだよな

中途入社してから
今のポジションに
来るまで

裏じゃ相当
ヒトを蹴落として
きたみたいだし…

帰るまで
本当に
大丈夫なら
いいが…

しつけない

俺は…

うわ

ぶっしょっ

会社にファイル
忘れてきた
みたいだ

おかしいなあ
絶対絶対入れた
ハズなのに

ああこのちよつと
天然なトコも
可愛い…

カッ

俺が
取って
きますよ



え、
でも

ちようど
持ち帰りたい
資料忘れてた
ので

これは
嘘だけど

名前…

いつもは
「柊くん」って
名字で呼ぶのに

酔ってるのか

うわーん
ありがとう

大輔は本当に
優しいなあ!!



叶わない
恋だけど

こんなこと
だけで
俺はすぐく……





ダメ…だろう

こんな……



あ…



『天輔』

ギッ



『信頼できるから』

『優しいなあ』

清水課長…

瑛一…さん…

ちゃ



キス…したら
コーヒーの味
なのかな

コーヒーの香り…

キスして
それから
あの綺麗な
指で…

あ

課長がいつも
使ってる
ハンド
クリーム…

冬に

俺の指に
塗ってくれた
よな…





まるで
操られて
いるように

体が
止められねえ……！

は……
は……





神崎!?

お前…
どうして…

その目!

どうしたんだよ
真っ赤じゃ
ねーか!

怪我でも…

オナニの最中に
人の目の心配か?
さすが優しい
大輔くんだな

カッカッ



なっ

何を言ってるんだ!!
お前……っ

俺は快楽で
頭がおかしく
なっちゃったのか?



快楽で頭が
おかしく
なっちゃったか
って?

半分
合っているぞ



お前に飲ませた酒に
魔界の媚薬を
入れたからな

グッ

だが
残り半分は――



あいにく
この目は
生まれつきだ

この牙も
このツノも
翼も尻尾もな

どれも自由に
可視化できる

元から淫乱な
お前の性^{さが}の
せいだ



せい
ゆう
に
ゆ
う
…?

雄の出す
乳のことだ

精液よりも
生命力を上げる
効果があつて

俺の力を
強めてくれる

川ッッッ

はぁ!!?

お前
部活のときも
課長に触られて

ここから精乳を
垂れ流して
いただろう?

味も…
甘くて
俺好みらしい…

フッ

ニヤッ

カリッ
タッ

ッ



お前
清水瑛一に
惚れているん
だろ？

お、
お前には
関係ない！

課長は
ノンケで
普通の……！

ああ
片想いか

まあ
どうでも
いいことだが

男を
受け入れるのに
抵抗はないな？

もっと
もっと

快楽を
与えてやる

ま……さか……

嫌だ！

てめえ
何考えて！

カ
フ

翼もツツも
ホソモノだ！

こいつ
本当に……

ぐっ！

体が動かない……

悪魔だ
………！

おや……

挿入に
ちようどいい
クリームが
あるじゃないか

やめろ！

それは課長のツ！

あ





課長の机
汚しちまう！

まだ理性が
あるのか……
人間としては
珍しいな

この期に及んで
好きな男の
心配か？

ますます
気に入った

墮とし
甲斐が
ある……

ペリ
リ

せめて
場所つ

変えて……

安心しろ

わぁ……

汚す心配はない



そんな…!



この
マグカップで
受け止めて

俺が
綺麗に
全部
飲んでやる



あああ

カリポッ

あ

ああ

嫌だっ!

いやだあ!

ああ

ギシッ

ギシッ

パン

ごめんなさい
課長

ギシッごめんなさい!

誇れ

お前は俺の
供物に
選ばれた

カッ

カッ

カッ

一生
俺のために
精乳を貢ぐのだ



あれ？
僕の
マグカップと
ハンド
クリームが…



おはよう
ございます
課長

すみません…



昨日…
俺その
酔ってて…

課長の机で
粗相して
しまったので
新品を買って
おきました



結局あの後
ファイルも
お渡しできま
せんでしたし

本当に
申し訳…



なんだ





ア ク マ
神崎伊織の餌として調教されていくことになったのだ——



CHICHIMEN

π02

ほら大輔
もっと尻を
あげろ！

いっしん！

や 神崎

っああ！

もうやめ…

同僚の神崎に
調教されることを
承諾して
しまった俺は

うああ！

っはあ……

あれから毎晩
酷い責め苦を
受けていた

じん
じん
じん

——柊大輔

お前はどうかやら
被虐の素質が
あるな

打てば打つほど
ここが濡れて
くるじゃないか

ゴッ...

ふああ

あ

べっ

く

く

きゅん...

あああつ

悪魔である

コイツ

——神崎伊織が
望むのは

こう

ぶ

ぶ

く

ふ

ふ

ぐりぐり

ぐり

俺の乳首から
吹き出す
この精乳だ

何らかの目的が
あってのこと
らしいが...

さや...

ド...

ぐりぐり





どうした？

お前は
俺の言うことを
なんでも
聞くんだろう？

ほら
さつさと
しゃぶれ

さつきまで
俺を^{なぶ}眺^{なが}っていた
モノを…!?

頼む

許してくれ

それは…っ

……

—そうか

やはり
俺のような
バケモノと
寝るのは嫌
というわけだな

フフ
傷ついて
しまった
なア…

な

神崎…?

同僚である
柊大輔に
拒絶され

傷ついた…
という話は

やはり
上司である
課長に相談
するのが適切
だと思うが

どうかな?

クイ…

んん…!!

課長に全て
話してみようか

こんな
イヤラシイ体
をしていることも

!

お前が
課長の机で
自慰をして
いたことも

わ
わかった

だから
課長にだけ
は……

言う通りに
する

純粋な
あの人に

こんなこと
絶対に
知られたくない
……ッ！

入社した
時から
ずっと

課長だけが
好きだったんだ
……！

それは
ご苦労なことだ

ならば
口を開けて
舌を出すんだ

あ……

歯を
当てるなよ







本当だ
こいつのを
飲まされてから
体が…っ

熱くて
飢えて
もっと
欲しくて…っ！



違う

違うっ

もじもじ

俺は…っ！



なんだ 大輔

自分で腰を
振り始めたな
まさか
ここまで
だとは



これだけ
乱れて
おきながら

まだ
自分の本能を
認めないのか？

あっ♡

っアッ



では

ひゅっ♡

ひゅっ♡

す
るううう

やれやれ

普段の仕事
ぶりから
根性のある奴
だとは思って
いたが…

一つ
ゲームを
しよう



今週末

部活が
あったらどう?

ゲーム…?

ア…



この
オモチャを
仕込んで
部活に出て

課長と寝技の
乱取りを
するんだ



だが

へ?

もし感じて
イッてしまったら
……

無事部活を
終えられたら

お前の気持ちは
純粹なもの
だったと認め
解放して
やってもいい

お前はやはり
課長をオカズに
オナっていた
変態で

悪魔の餌として
調教されるのに
相応^{ふさわ}しい人間
ということだ

どうだ？

ギリッ

ッ

はっ
試練を与えて
俺の愛を
試そうってのか？

悪魔のクセに
カミサマみたいな
ことするんだな

！

……

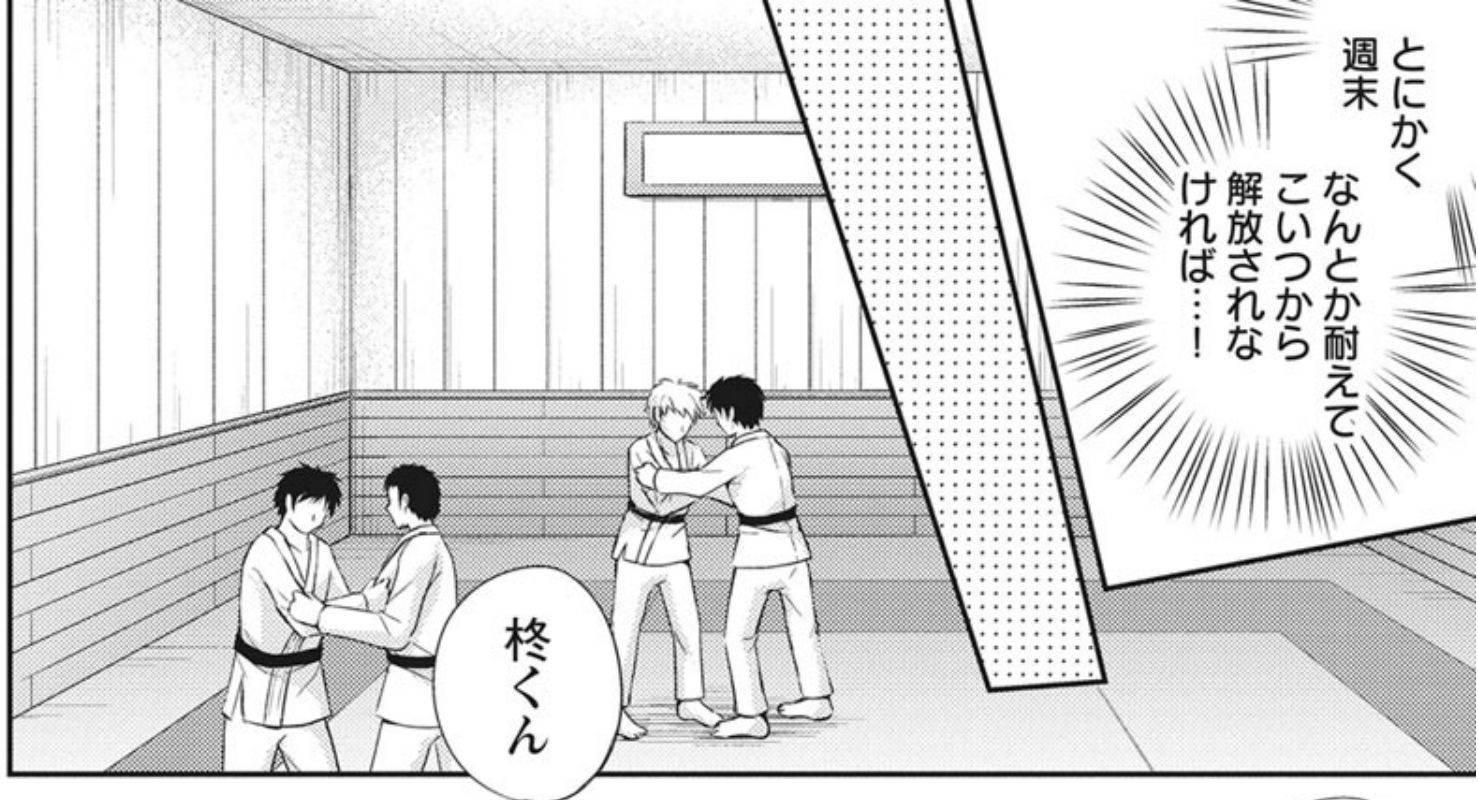


せいぜい
頑張れよ

様々な刺激を
与えることで

精乳が
深みのある
甘さになる
からな

：一瞬
神崎が戸惑った
表情をした？



とにかく週末

なんとか耐えてこいつから解放されなければ……!

柊くん



清水課長……



部活に来て大丈夫なのかい?



この間からずっと元気がなくて心配してたんだ

今日も顔が赤いし

いえ

これは……



あいつに
変なモンを
仕込まれてる
せいなのに



課長に
心配される
なんて...



はい...っ

キョロロ...



うちはそんな
体育会系じゃ
ないから

部活を休んでも
昇進に影響したりは
しないからね

無理しちや
ダメだよ?

課長の優しさに
濡れてしまった...

こんなん
で乱取りなん
かできるのかよ……



俺は体だけ
なんかじゃなく

心で課長に
惚れたんだ

それをして
あいつから
解放されてやる！



課長の机で
あんなことを
してしまった
俺だけど

それでも

この恋は
ホンモノなんだと
信じたい――

清水課長
乱取りのお相手
お願いします

無理はしない
ようにね

ぐっ..
ああ…なのに

なのに俺は

ソクッ

は

フシ

カチッ

ソクッ
ソクッ
ソクッ

グッ
グッ

ッ!

ッ
ッ

くっ!

ッ

ふい

ッ

ふい

ッ

ふい

グッ

コす、

ッ

ッ

ハ...

ッ

課長の手が

匂いが

は



柊くん？

…っ
あ…

…すみません

気分が…

課長
ごめんなさい

やっぱり俺は
…変態です





搾れよ！
しほ

搾乳

してくれよ！

んっ
はる

俺のために
乳を捧げる
気になったか？

ああ

俺は課長に
恋をする資格
すらない……

どうせ
ずっと一人で
生きるなら
お前の餌にでも
なんでも……

「ずっと一人」か
フフ……
俺と一緒にだな

え……



なんで
そんな目で
見るんだ…？

悪魔のくせに…っ

キスなんて
するんじゃない
早く…っ！

悪魔のくせに…っ

キスなんて
するんじゃない
早く…っ！

そう急せくな

今この
コリコリの
乳首から直接
吸ってやる

そう急せくな

今この
コリコリの
乳首から直接
吸ってやる

たっぷりと
な…

〜…

うふふふふふふふふ

スリ
フル

か、は、

わくわく

あーああああ

びん

あ

コキ

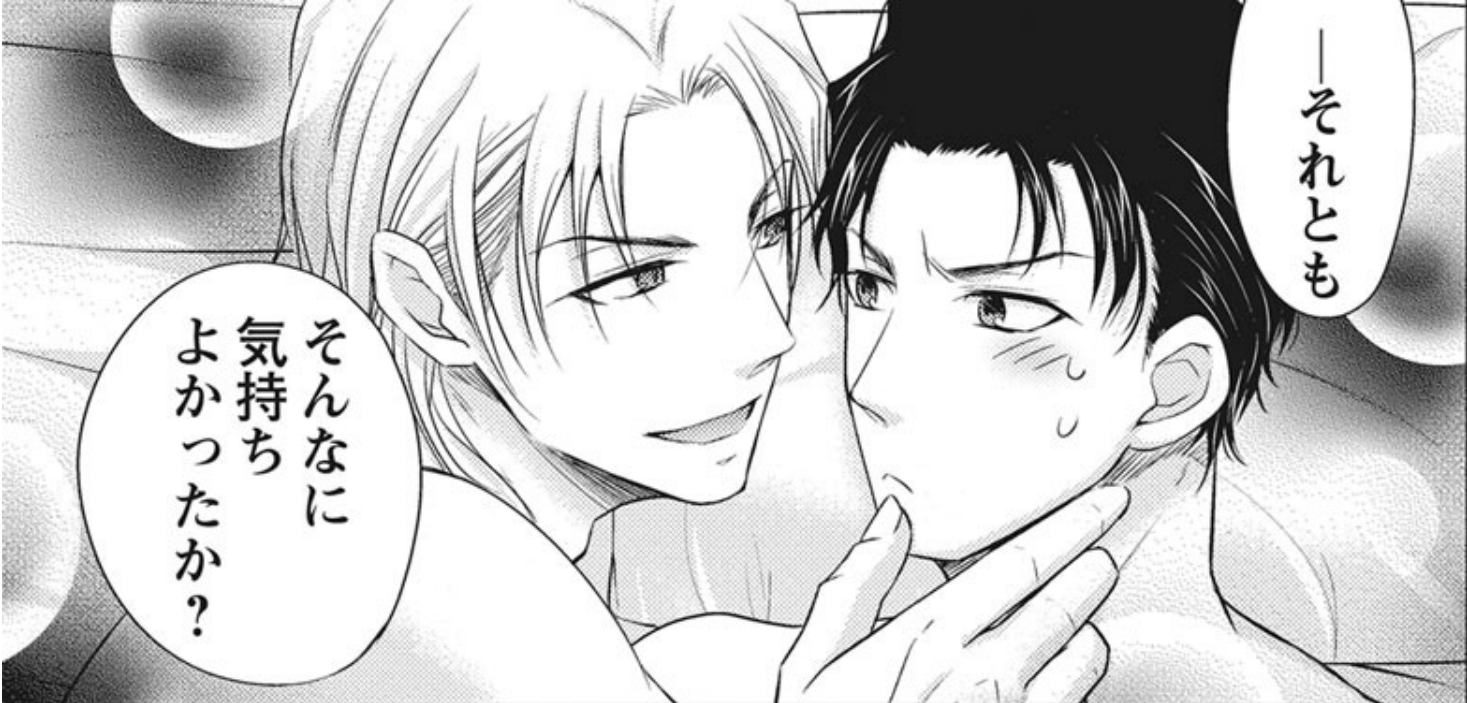
ふあ

コキ

ダメだ…
俺の体は
こいつに…っ
変えられちまった…!!

〜





—それとも

そんなに
気持ち
よかったか？



ただ

勝負に負けた
のは事実だ

約束は守る

うるせえ

はっ



人間とは
本当に不思議
なものだな

いや
それとも…

お前が
特別なのか？

さあな

俺だって
悪魔が皆
お前みたいに

絶倫で最低な
ドS野郎
なのかどうかは
知らねーし

そうだな

確かに
お前の
言う通りだ

俺は他の
悪魔とは
異なる存在だ

?

原初

俺の瞳は
蒼い色を
していた

天界の

空の色を
そのまま
写し取った
ようだ

皆に
言われて
いたよ

瞳が紅に
染まったのは

魔界に
堕とされて
からだ

お前……

人間が付けた
名では
堕天使……
というやつだ

もはや
天使ではないが
元々悪魔だった
わけではない

どこにも
属していない
それが俺だ

誰も愛さないし
誰からも
愛されない
生涯孤独の身――

孤独

俺は自分と
神崎の姿を
思わず重ねて
しまったが

騙されては
いけない

今のこいつは

何らかの目的で
俺の乳を
求めている

邪悪な存在で
あることは
間違いないの
だから

少しだけ
眠る

朝まで
ここにいろ

お前の
肉の手触りと
温度は心地良い

それでも

心が
揺さぶられるのは
何故なんだ……





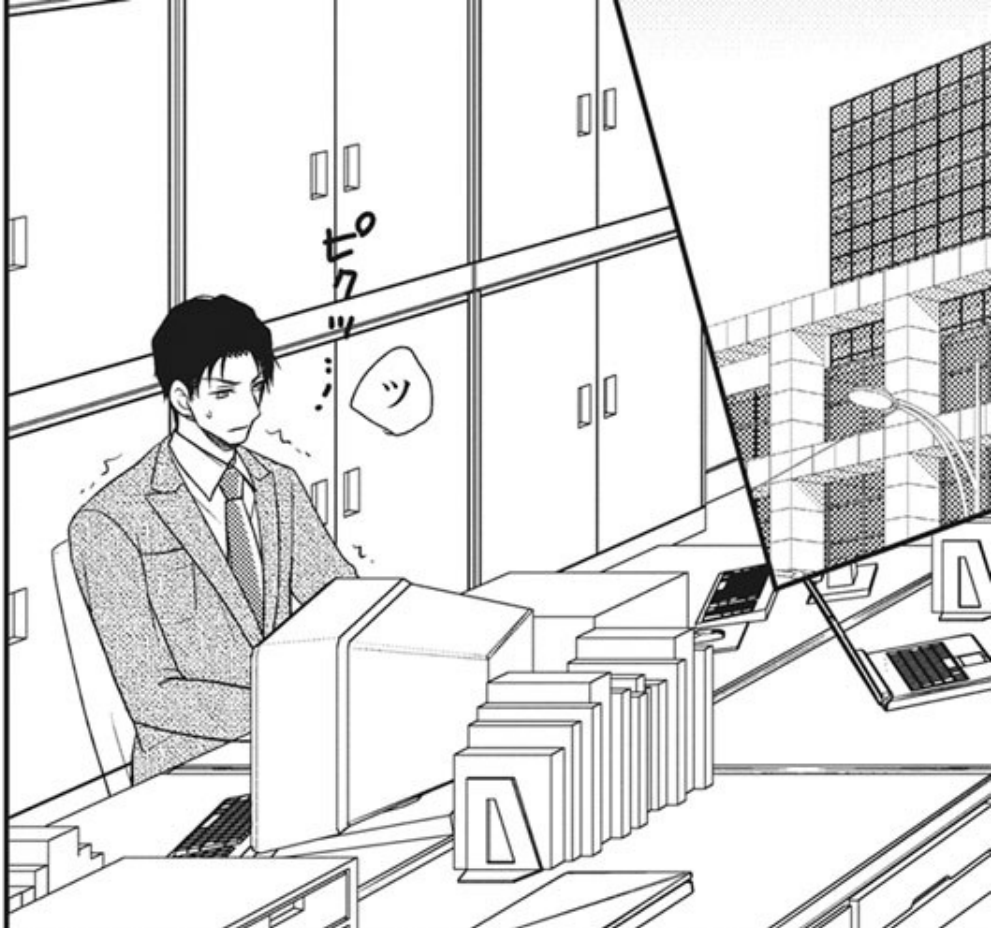
CHICHIMEN

π03



仕事中なのに

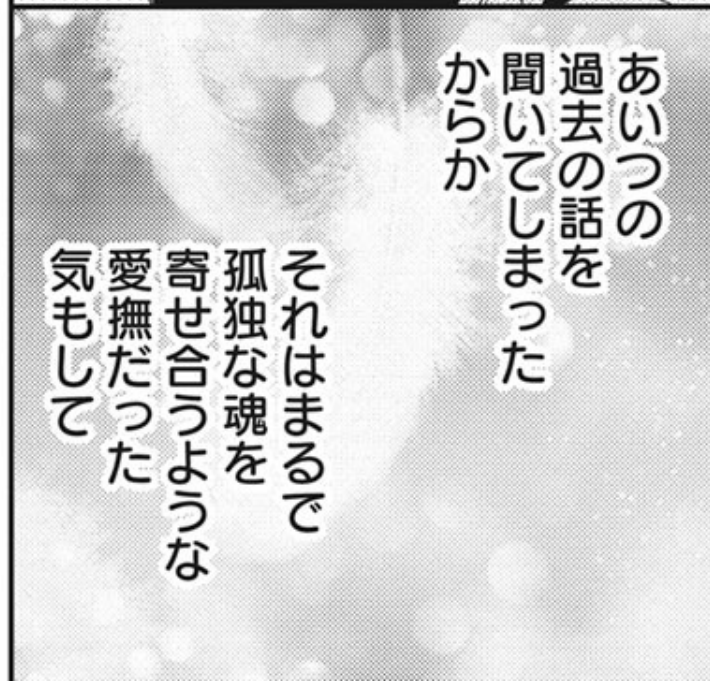
体中が
ジンジンとして
けだるい
気怠い…



ツ
ッ
ッ



昨夜の
せいかな…



あいつの
過去の話を
聞いてしまった
からか

それはまるで
孤独な魂を
寄せ合うような
愛撫だった
気もして



こんな
浅ましい体を

あの悪魔——伊織は
朝までたっぷりと
抱き尽くした…

シヤッ…ッ







体に良くて
美味しいの
ごちそうする
からね！

ありがとうございます
ございます

本当に行つて
いいのかよ…

どうしてだ
課長がこんな風に
笑顔を向けて
くれるのに

伊織のことが
気になる
なんて…

おいのかよ
いいのかよ
今夜

課長と…

ああ

だが

セックスは
許さない

誘惑されて
たっぷり
発情して

熟れた
体になって
帰って来い

課長は
そんな…

あの男は
それでも
お前の方は
どうだかな

淫らに
ミルクを
振りまいて
誘うかも
しれない

お前以外に

んなこと
しねーよ！

違う

その

なるほど

俺以外では
満足できない体
に順調に仕込めて
いるということか

あ、

だが
念のため

なっ

伊織
待て…ッ

ガッ

ここ
で
ンッ

俺の種を付けて
マーキングして
おこう

嫌だ…

課長と食事に
行く前に
こんな…ッ

ふあ…

ん
ンッ
くちゅっ

くちゅっ…

ほらほら

早速お乳を
垂れ流して
いるんじゃないか

しかも
今日のは
随分と濃いぞ

あ

は…

ネットリとして…
イヤラシイな

愛液以上の
トロみだ

とろーん

これで
解せば
後ろも美味に
なるな…

匂いも
濃厚だな…

ス・リ・ス・リ

あ

あぁ

たっぷりと
種を付けて

俺のモノだ
ということを
ハッキリさせて
おかないとなあ

ぐいっ

これでは
あの男も誘惑
されてしまう
かもしれない

ぐちゅ

ぐちゅ

やめっ

スッ

ア
ア
ア
ッ!!

ひく
ひく
!!

ああ
ッ!

昨夜たっぷり
可愛がって
やったばかり
だというのに

まるで
頬張るように
締めつけてくる
じゃないか

ああ…
具合がいい

ああ

ニキ

ニキィッ…

どうだ?
オフィスで
立ったまま
ヤラれるのは…

ほらもつと
足を開け

今日は
お前の奥の奥

S字になって
いる辺りまで
ブチ込んで
やる…

ひッ!

くっ
いっ

嘘…だろ

いつも
当たってる
ところより

奥まで
入り込んで
きて…

ゴッ
おっ
ゴッ
んおっ

ハハ
無様な
格好だな

課長には
とても
見せられない
な!

こ…こわいっ

はあ

はあ

やめえっ

や…

おっ

深いところには
オナナ以上の
性感を得られる
スポットがあつてな…

ぐりっ

ひっ

んっ
んっ

そこに
媚薬効果のある
悪魔の先走りを
擦り付けると
どうだ？

ぐちゃっ

たまらん
だろう？

ひっ
ぐちゃ

ぐちゃっ

いっ

なんだこれ…
すごい…!!

ズるるるっ

ピュッ

ピュッ

とはいえ
足腰が立たなく
なっちゃって

今日は大事な
課長とのデートに
行けなくなつて
しまつて
可哀想だからなア



自分が
誰のモノか

あ

そろそろ
種を付けて
やろう！

あ

すっかりと
思い知れよ
大輔！

ブッ
ブッ



そんなこと
わかってる…
のに…！

ア

パン
ッ

パン
ッ

パン

ブッ
ブッ

俺……
ところてんみたいになっ
ちまつてる……

体に精を
注がれて
促されるように
精乳を
垂れ流して……

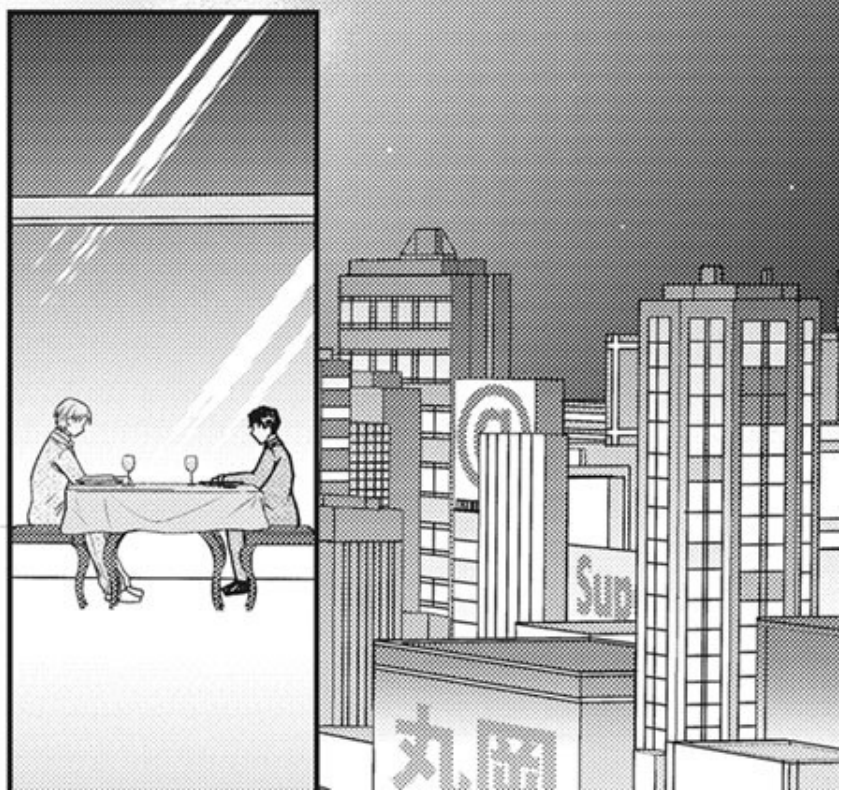
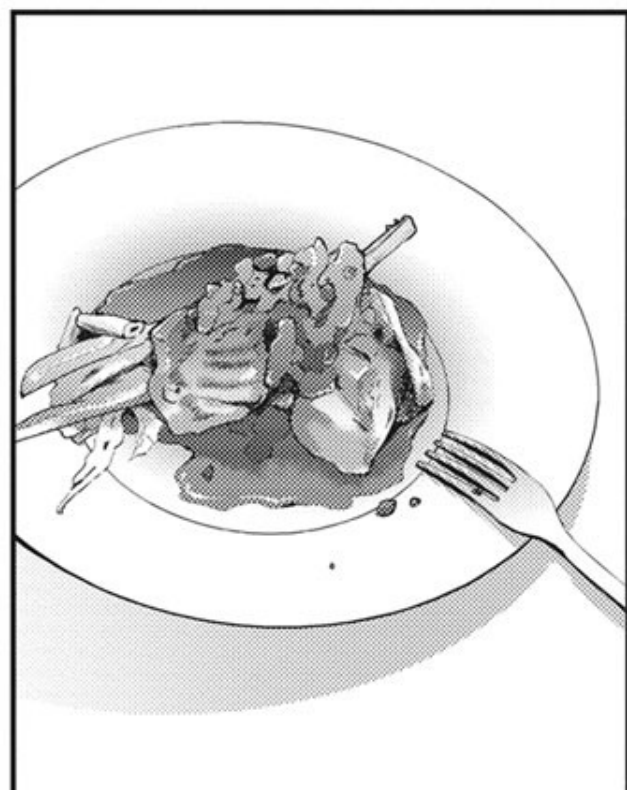
今
何を……

フフ……
プラグで詮を
してやった

魔宝石付きの
可愛らしいものを
お前のために
用意したんだぞ

そこに淫力を
たっぷりと
満たしてある

まるで
バイブのように
脈動が伝わる
だろう？





美味しい
です

いえ…

あつ



…口に
合わなかった
かな？



尻の奥で
あいつの残滓が
グチャグチャと
俺を苛さいんでいる
せいだなんて

言えない



何か悩んで
いるんだろう？

僕じゃ……
話せないかな？



ほら

そうやって
無理する！

えっ

大輔はそうやって
なんでも溜め込む
からなあ…

仕事だって
いつも人一倍
努力してたの
僕は見ていたよ

あ…

ストイックで
表に出さないから
皆あまり
気づいてないけど…

面倒な仕事や
地味な作業でも
誰より真面目に
頑張ってたの

僕は知ってる

そんなんじや…

ギョッ

ないです

俺はそんな
立派な人間
じゃない

貴方に
認めて
ほしくて…

ほら

そうやって
けんそん
謙遜する

謙遜じゃ
ないんです

本当に…
俺は

貴方が
好きだったから
頑張っていた

不純な人間
なんだ

ふは、。

最低な
人間だから…

ぐいーっ

…

おお…



あの……

まさか
バレて……!?

ああごめん

この言い方は
卑怯だったかな

まずは僕から
見せなくちゃね

ゴッ……

大輔……
君が好きなんだ

な……



確かに
女性としか
付き合った
ことはないよ



課長は
その…

ゲイでは
ないでしょう

でも
興味本位
なんかじゃない

君となら
一緒に生きて
いけると…



いや

君と二人で
生きていきたい
と思ってる

それは

きっと
課長が孤独を
知らない
からだ…

「普通」の
生き方から
外れる辛さ

多数派に
属することが
できない人生は

一人だけ
足元が脆い道を
歩むような
感覚だ

その辛さに
この人を
巻き込むなんて…



入社してきた
頃からずっと

君が可愛くて
仕方がなかった

だから

何か悩みを
抱えているなら
分かち合いたいし

君を
支えたい



こんな時
なのに

あいつの
道具のせいで
ミルクが…ッ

トロッ

男同士の
付き合いは
初めてだけれど…

トロッ

でも僕なりに
真剣に考えて

気持ちを告白
しようと思
ったんだ



そんな…
でも俺…っ

ぎゃ

君も嘘が
下手だから…

生涯孤独の身

僕の勘違いで
なければずっと
君の視線を
感じていたよ

僕と同じ気持ち
なんじゃないか
って…

どうして
伊織が頭に
浮かぶんだ…

それは…

そうだった…
けれど

返事は
急がない

だけど

もしも
辛いことが
あるなら

君のことを
想っている相手が
すぐそばにいることを
わかっていてほしい

そっ……

はい……

どこまでも
優しい課長

きっと
この人なら

汚れてしまった
俺の淫らな体すら
受け入れてくれる
かもしれない

課長のデスクで
オナニーした
あのことも
許してくれるの
かもしれない

けど

だけど
俺は――

こんな
最低な奴
なのに

で

どうだった？
課長との食事は

下の口から
俺の精を^{すす}吸るのが
忙しくて
料理の味など
わからなかったか？

いや

こんな
最低な奴
だから

俺じゃなきゃ
こいつに
寄り添えない
だろう

なんだ…



もう欲しいのか？
こらえ性^{しょうせい}が
ないなあ大輔

詮を
抜いてやる



ああ
ダメじゃないか

涎よだれのように
こぼ
零れて
はしたない

ちゃんと全部
吸収できたか
と思ったのだがな



だが
安心しろ

また新鮮なものを
たっぷり
飲ませてやる



わ
わかってる……っ



だからお前も

豊潤な乳汁を
俺にたっぷり
献上しろ

今日は万が一
お前が裏切った際に
課長に鑑賞して
もらえるように
記録を取ってやる

これは
魔界専用の
道具でな

映像や音声だけ
でなく匂いまで
記録される
優れものだ

ズンズンズン

いつもお前は
最高の匂いを
させてるからなあ

や

やめ…っ

これを嗅いだ
男はすぐに
エレクトして
しまうだろう

いやだ…

あッ

ズンズンズン

お前の
この

俺に^{なぶ}嬲^{なぶ}られ
腫れ上がった
プルプルの
乳首も

ひっ

とっ
きゃっ

プツクリと
めくれあがり
そうなの口も

ああっ

やっ

くちゅっ

くちゅ

くちゅっ

あ

ミルクと蜂蜜を
混ぜ合わせたように
濃厚な

恥ずかしい
匂いをさせている
甘い淫液も

すべて…

川く



課長に…

いや
他の人間の
雄どもに
接触を許したら

この記録を
相手の脳に直接
インプットして
見せてやるからな

この
恥ずかしい音も
全部丸聞こえだ！

ああ、

こんなこと
しなくても
俺は…ッ

俺は

お前の
ものなのに…

…二夜連続は
やりすぎたか
…？

俺だけの
ものだ

ふ…
俺が人間を
思いやるとはな
いづぶりだ…

伊織…

ああ…

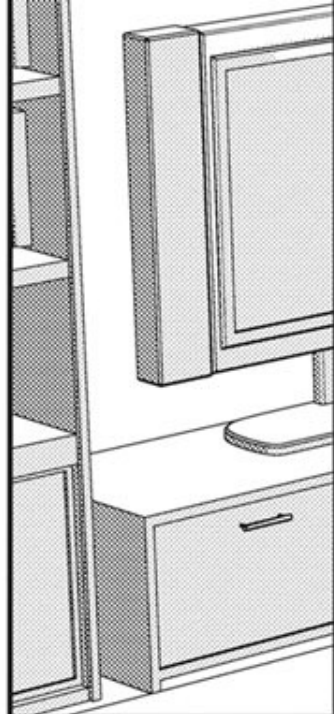
やっぱりこいつを
独りになんて
できねーじゃ
ねえか

大輔…
誰にも
渡さない



CHICHIMEN

π04













せいぜい
大好きな課長を
想って

雄乳を
精製するん
だな

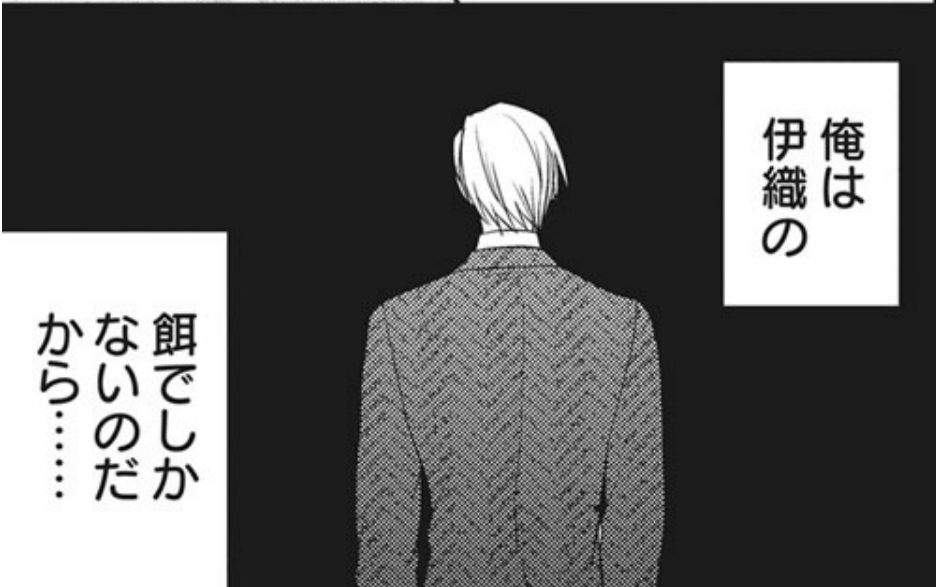
ハハハ...



まあ
吸^{すす}るのは俺だが



きっと伊織は
俺が何か聞いても
答えては
くれないだろう



俺は
伊織の

餌でしか
ないのだ
から……



…ほら
出社するぞ

さつさと
準備しろ
大輔

俺は課長と

伊織と

……
どうしたいんだ



課長……

ドキ……

ふうやっと
昼休みか

やあ

体調は
どうだい？

今日 柊くんが
出社していて
よかったよ

朝から乳を
搾られると
体力がキツいな……

じゅん
じゅん……





課長…



わかった

くれぐれも
無理だけは
しないでね



そのこと
なんですが
仕事後に
お話が…



新入社員の
頃からずっと
貴方のことが
大好きでした



昼休み

課長と何か
話していた
ようだが…?



今夜
俺は

貴方に…





擦れば
その時の匂いも
再現される

嗅いで
みるか？

うっ

青く生臭い
雄の匂いと
アンモニア臭に

甘くかぐわしい
ミルクの香りが
ブレンドされて
最高だろう？



これを…

お前が
男に犯され
搾乳されている
時の香りを

課長にも
嗅がせて
みようか



やめろっ

わかってる

わかって
いるから……

俺は
お前のモノだって…



理由を聞いても
構わないかな？

僕が
フラれるのは
いいけれど

君がそんなに
辛そうなのは
気になるよ

この人は
どこまでも
優しいのに

俺は
どうしても
あいつと
離れられない

心が……

好きな人が

できたんです

体だけ
じゃない



ごめんなさい



俺

入社以来ずっと
課長に憧れて
いました

貴方を…

その…

オカズにして
しまったことも
あります



だけど今

放って
おけない奴が
いるんです

そいつは
課長と違って
優しくもないし

最低な奴で…

それでも…

俺は

自分の
ずっと感じてきた
孤独を

伊織の孤独に
重ねて

温めて
やりたい

好き

なんです

…そっか

もっと早く
告白すれば
よかったな

でもね

君の
好きな人が

君にそんな
辛そうな顔を
させる相手なら

僕も
諦めきれ
ないよ

たぶん…

君に片想い

していても
構わないかい？

課長

ごめん
なさい…

ごめん
なさい…

そうか

課長から
告白され
断ったのか

クククツ

はは

お前の
苦悩によって

精乳にも
コクが増す
だろうな…

やっぱり

伊織は
俺のことを
餌だとしか
思っていないのか

あ

それならお前は
誰と心を
寄せ合っただ？

もはや天使でもなく
生まれながらの悪魔でもない
もちろん人でもない存在

んっ

う

うみっ

周りはすべて
敵と道具と
餌……

そんな
世界は

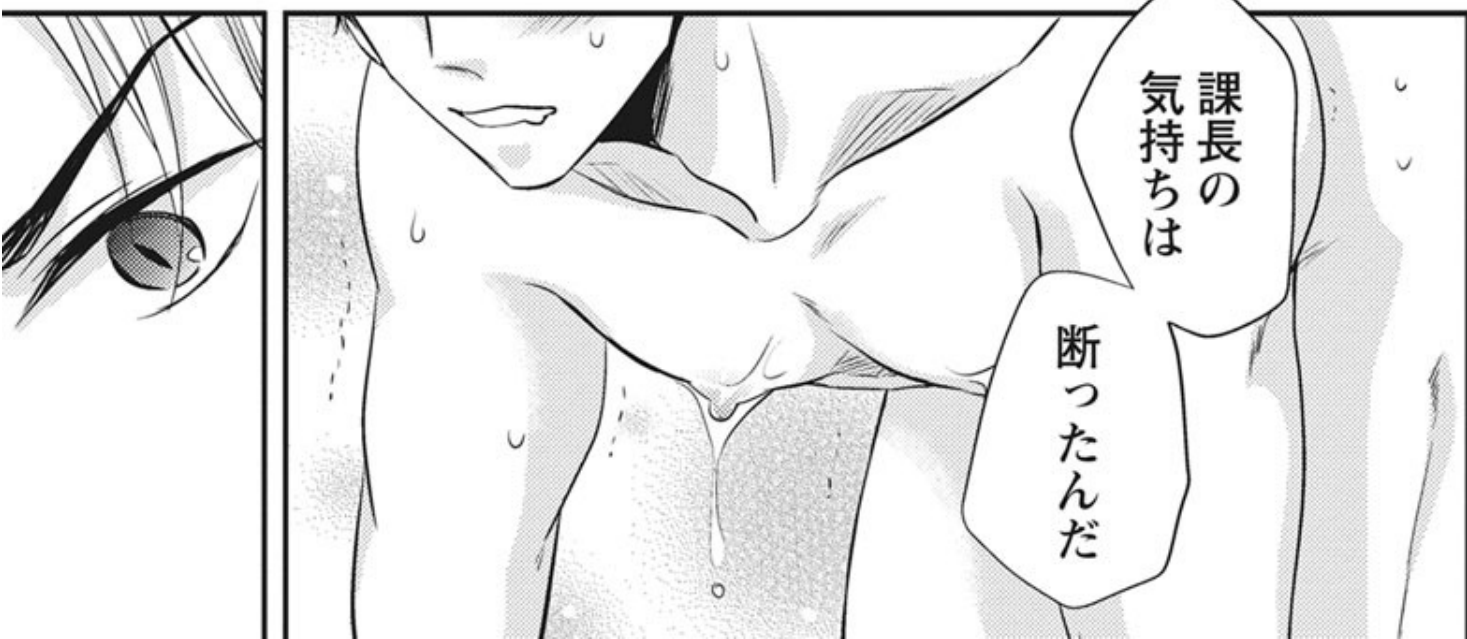
お前のその
美しい赤い瞳から
どう見えて
いるんだろう……



お前に
脅されたから
という意味
じゃない…っ

お前のことが
放っておけない
から…ッ

ア



課長の
気持ちは

断ったんだ

放って
おけないだと

S字結腸の
奥まで
ぐりぐりゆと
抉りながら

んっ！

いいッ
だろうなあ

乳を搾って
快楽を与え
られるのは
俺だけだろう！

ずぶぶぶッ

ゴリュッ！

うあああッ

あ...

ちやう

うあッ



それだけ
じゃない

俺はっ
体だけじゃなく
心…

くだらないことを
言うなよ
大輔!



こんな
全身の穴から
だらしなく精を
垂れ流しながら
何を言う



いっ…



わっ、
あ…

心が
なんだって？





ま

待ってくれ

神崎話を…

話など…

何もない



つわもっ

すく
91.0
13.0
んっ



乳奴隷の
くせに

思い上がるな!



…どうせ

お前も
いつかは俺を
裏切る…

そうなる前に
すべての精乳を
搾り取って
やらねばな

違う

俺は
裏切ったり
しない

お前を

伊織を

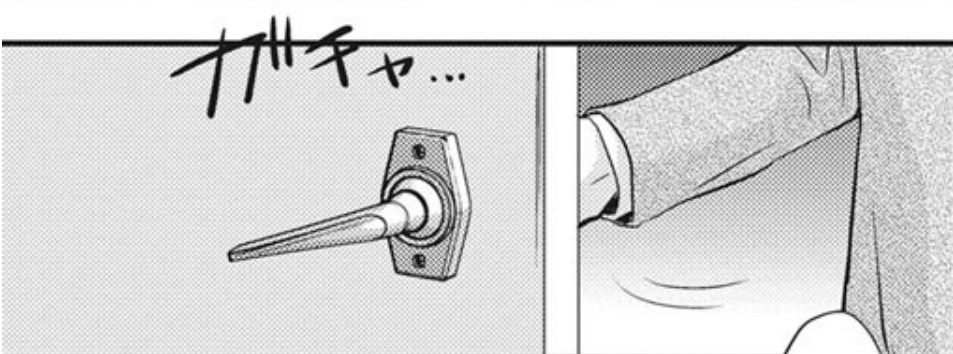
ちゃんと
理解したい
んだ！

黙れ！

理解など
心要ない…

お前の
その甘っこよろい
戯言は

ただ
俺の与える
快楽の虜になって
いるだけだ…





大輔…

ニッ…



今そいつは
俺の力で
操られている
状態だが

完全に
意識がない
わけではない

深層心理を
解放してやった
だけだからな



つまり…

今から
することは
課長自身の
望みだ

な…っ



なんでこんな…

伊織…っ

…お前は俺を
裏切らないなどと
言ったが

気持ちよく
してくれる男なら
誰でもいいん
だろう？

大好きな課長なら
尚更いいだろうなあ

違う

俺は…っ

ゆ

指…っ

嫌です
やだ…っ

ズ
グ
グ

ああっ

大輔

僕の指
くわえて
ヒクヒク
してる…

こんなに
えっちな子
だったんだね

はあ
はあ

やんあつ

もっと早く
こうして
しまえば
よかったかな…

ふふ今から
もっと太いのを
挿れて
あげるからね

ひ…っ！

びくっ！

嫌だ…

俺は
伊織の…っ



入っちゃった…
課長の…



あああ

ブッ
ブッ
ッ



あ

んあ

ギシ

ギシ

やっ

ギシ

しっかりと
締めて課長を
悦ばせてやれよ
大輔

フン



俺は

この男を

神崎伊織を

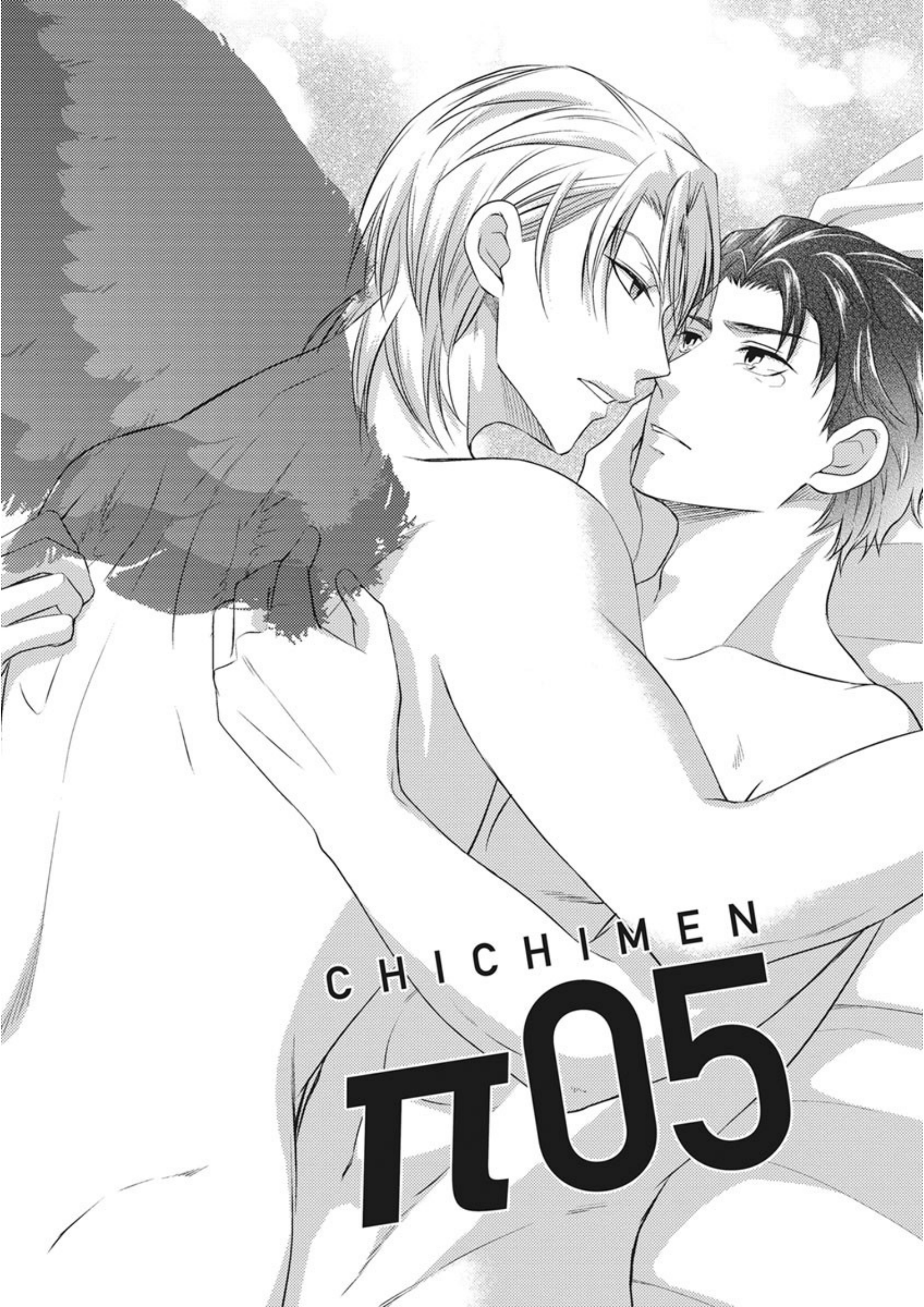
あゝ、

あゝ……

愛してしまったんだ……

ツ

!!



CHICHIMEN

π05

遠い遠い
昔の話

まあ
なんて
美しい…

透き通る
海のような
瞳ね

いいえ
爽やかな
空のような
瞳だわ

神にもつとも
愛された天使

そう
あの日
までは…



：地上へ
降りた時に

羊飼いの少年と
出逢ったんだ

飢え

奪い合い

徒党を組んで
争う人々の中

彼は孤独で

それでも
けだかく
気高く
懸命に
生きていた

誰もが
我こそはと
食料を求める中

彼は一人
弱き者たちへ
それを振る舞った

逆に彼を助けよう
とする者は誰も
いなかったにも
かわらず…

民のすべてが
罪深いわけ
ではない

滅びの運命
免れてもよいと
思うのだ

すでに俺の
仲間たちには
直訴に行くための
力添えを頼んで
いて…

……お前は

人間ごときに
情をかけるの
だな…

俺に応えて
くれたことは
一度もないのに……

馬鹿な
ことを……

友として
いつもお前を
思っている

お前も
直訴の日には
来てくれるだろう？

友……

か……

ニャラッ

これは
どういうこと
ですか!?

愚か者め

自分に与する
天使達を率いて
叛乱を起こし

神の地位を
篡奪しようとは
傲慢なる大罪！

違います！

俺は！

ひどい
思い上がりね

なんという
墮落…
腐敗した民と…

重い罰を

地に
堕ちるが
いい！

もう誰も信じてない

もう誰も許さない

力を蓄え
舞い戻り
復讐してやる

なぜ……

クス

クス
クス
クス

お前が……

精乳を……！

ほんの
少しだけ
昔の話

自分が
嫌いだ

ゲイだから
じゃない

お前
彼女作らないの？

そのうちなー

俺なんて
彼女に毎日
結婚せつつかれて
さあ

年貢^{ねんぐ}の納め時
かなーなんて

彼女も
うちの親も
早く子ども
欲しいって
言ってるし

羨ましいよ

可愛い彼女



孤独の殻に
閉じこもって

めめ
女々しく
人を羨んで…

一線を引いて

傷つきたく
なくて



優しく接して
くれる人には

汚い欲望を
向ける



眩しくて

課長を想うと
胸が苦しかった

いつも息が
できなかった

あの日

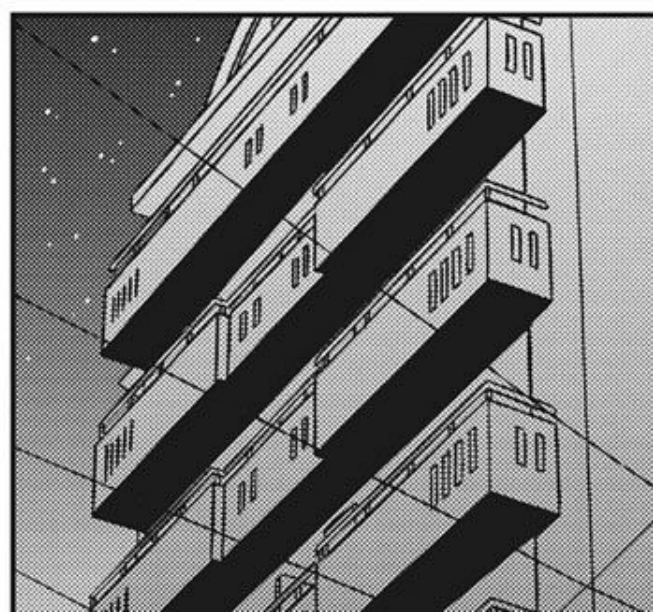
伊織に
めちやくちやに
されて

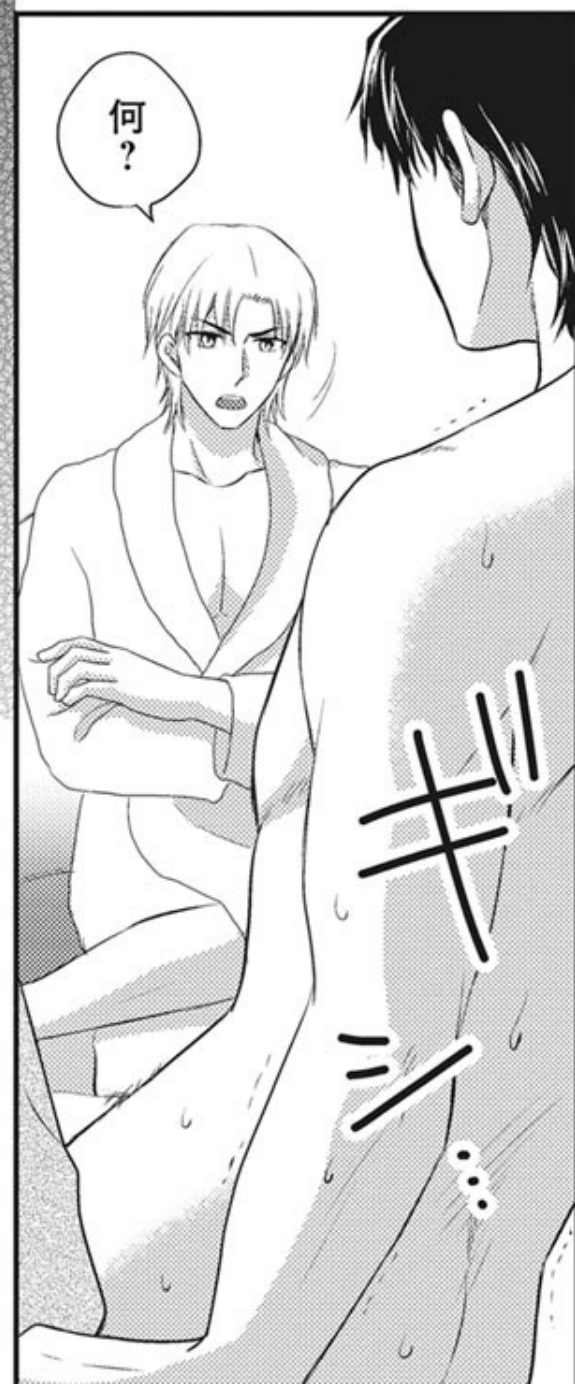
やっと

呼吸が
できたんだ……

伊織からは

孤独と憎しみ
そして寂しさの
匂いがした





その男は
用済みだから
眠らせてやっても
いいが…

で俺が何故
お前などを
怖がる必要がある

とっさっ

俺に好意を
持っちゃった
から

裏切られるのが
怖いんだろって
言ってる

これは
賭けだ

勝率の低い
賭けかも知
れないが

バカな

人間ごときを
この俺が…

…ツいい加減
認めろよ

俺にだけは
伊織の気持ち
がわかる気がするんだ

俺は
認める

俺は
最っ低な
お前に

伊織に
惚れてる！

そう
それは

お前の瞳を
綺麗だと
言った時

ほんの少しだけ
嬉しそうだった
ことや

すべて
ささいなこと
だった

俺を抱いて
眠る時

わずかに和らぐ
お前の表情に

ほんの少し
だけれど
^{まぎ}紛れもない
愛情を

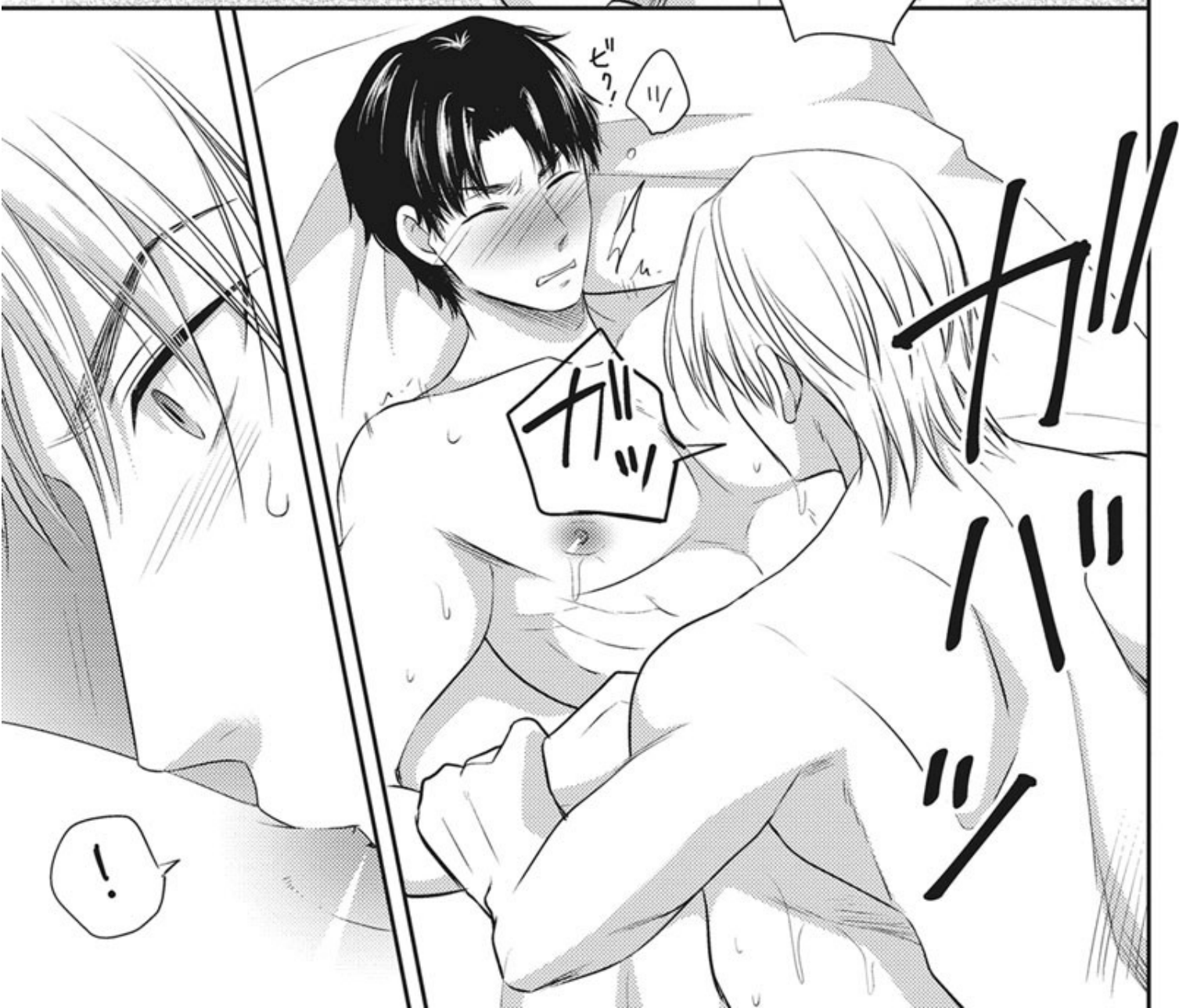
俺は
感じていた

俺がお前に
好意……
だと？

ありえないな

お前は！

俺に乳だけ
捧げていれば
いいんだ！！



お前…っ
この味は…!!

届くハズ
だ…!!

精乳は
俺の体から
溢れるもの
なのだから

この気持ち
を込められ
るハズだ

これは…

俺の憎しみが
消えていくほどの…

愛情…
だと…



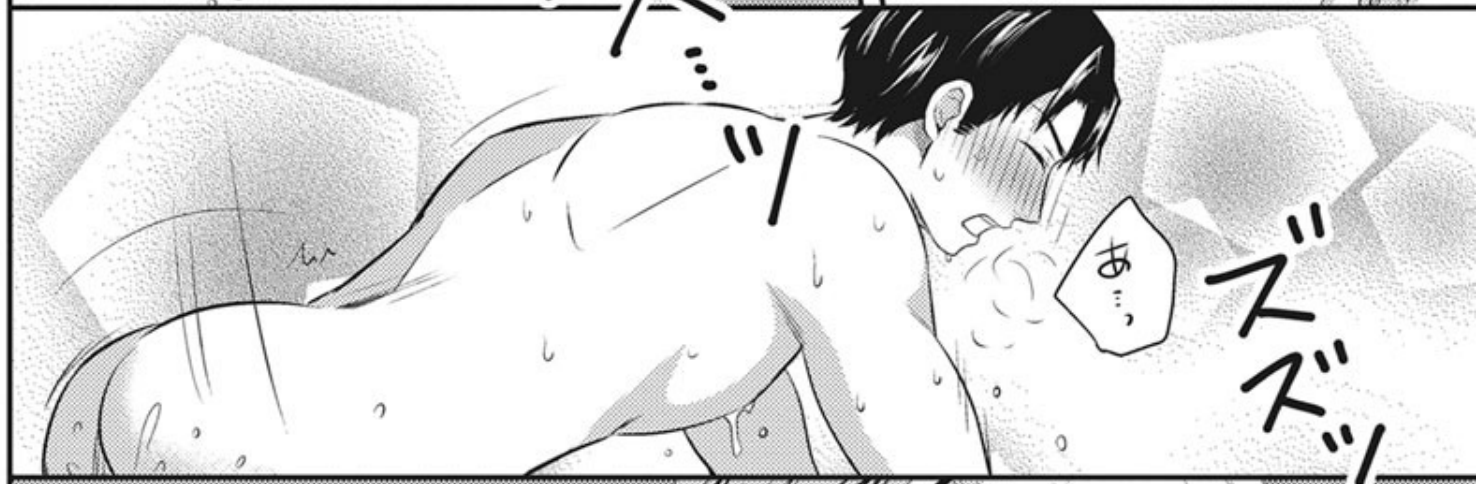


お前...

ッ
ん

ふ...

アッ...



あ...

ズズズ



ッ 初めて
だな

大輔から
積極的に
俺をくわえこむ
のは...っ



ああ

感じる
だろ?

ケツで
お前なこと
抱いてるん
だ...っ

ぎゅっ

きゅん

ぎゅん
ぎゅん



思えば
初めから

秘密を抱えて
孤独だった
俺は

伊織に
奪われることで
どこかホッと
していた



思えば
初めから

秘密を抱えて
孤独だった
俺は

伊織に
奪われることで
どこかホッと
していた



思えば
初めから

秘密を抱えて
孤独だった
俺は

伊織に
奪われることで
どこかホッと
していた

居場所を
見つけたと
思ったんだ

だから今度は俺が

来いよ!

俺の一番奥まで…っ

伊織の居場所になつてやりたい…!

だから今度は俺が

来いよ!

俺の一番
奥まで…っ

伊織の居場所に
なってやりたい…!

だから今度は俺が

来いよ!

俺の一番
奥まで…っ

伊織の居場所に
なってやりたい…!

だから今度は俺が

来いよ!

俺の一番
奥まで…っ

伊織の居場所に
なってやりたい…!



ならば

受け止めて
みせろ...っ！

受け止めて
やるよ...！

う...っ



15,

お前の

悲しみも
怒りも

は、

愛毛 孤独毛

はちやっ
はちやっ

ばちやっ

全部
この胸で…!!

「フー」

ト
ユ

「フッ」

セキキョウ



悪魔としての力が
弱まっていつている
ようだ…

それって…

俺の憎悪が
お前の愛情に
負けたという
ことだ

もはや
復讐のために
天界に戻るなど
できないだろう

それなら！

人間として

俺と一緒に
生きよう
伊織…！



強くなったな

お前は

好きだ…

伊織を
好きになって

本当の恋を
知ったからだよ

では

恋人達が
最初にすることから
やり直させてくれ



思えば

お前の
感じやすい
乳首のおかげで

俺達は
出逢ったような
ものだからな

ば…かつ

恥ずかしいこと
言うなよ…っ

これからは
他の箇所も
可愛がって
やる

あっ！

カッ
バッ



伊織…ッ

も…

早く…っ

お前が
欲しい…っ



キッ

ゆっくりして
やりたかった
のに

ア…ッ！

あお
煽るな…！

うああっ♡

ズ
ブ
ズ

ズ
いっ



好き

好きだ

すみ♡

すみ♡

あー

ぎゃうっ

大好きだ……!



悔しいなあ

僕だって
大輔がずっと
孤独や
どうにもならない欲を
抱えているのに
気づいていたよ

神崎くんが
普通の存在じゃ
ないってこともね

それで
大輔のことは
大切に甘やかしてから
蹴^{なぶ}ってあげようと
思ってたんだけど…

惜しかったかな

飴よりムチを
先にするほうが
大輔の
好みだったんだね

な
蹴^{なぶ}るって!?

ムチって!!?

課長が腹黒!!?



——と

いうわけで

●おまけ●

その後の三人

僕も大輔のおっぱいを堪能させてもらおうと思います

はあ!?

貴様
ふざけるなよ

僕
搾る人

神崎くん
飲む人

でいい
じゃない

なるほど

納得すんなよ



ふあああ

ぎゃっ

ずぶずぶ

えー
ずるーい
混ぜて
ほしいな

脱ぎ
脱ぎ

あ

んあ

ギシ

ギシ

あ
あ

僕も一緒に
いいよね？
大輔

なっ

そんな
同時に……っ
むり……！

オイ

大輔に
傷は
つけるなよ？



二人分
なんて...っ

かは

やあ

スッ

スッ

スッ

ギチギチ

あ
あ
あ
あ
あ♡

すごい…

$\vdots$

ど

31

まだ出てる

二人分の



授乳には
困らなさそう
だしな

※イメージ映像です。

まゝ待て待てー!!

いおり
い

産休育休の
取得は
僕に任せてね!!

課長!?

まあ
とはいえ
もう俺に
悪魔の力は
ないからな

叶わん
想像だ

少しな

あ…

そっか

残念か？

俺は男だから
目に見える形で
愛の証は残せない

それに

伊織も人になつた以上
いつかは…
別れの時も
来るだろ？

でも

互いのすべてを
受け入れられる

そんな相手に
出逢えたことは

幸せだよ…

ありがとう





乳男ーチチメナー

【コミックス版】【電子限定おまけ付き】

著者 青山 アルト

発行 株式会社 アイプロダクション

© Alto AOYAMA 2017

この作品はフィクションであり、実在の人物・事件・団体とは一切関係ありません。
本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載・放送・上映・配信・送信等を行うことは、
法律上の例外を除き、禁じられています。あらかじめ小社宛に許諾をお求めください。